

第 162 回 日本循環器学会東北地方会

プログラム

会 期：平成28年6月4日(土)午前8時55分より

会 場：アイーナ いわて県民情報交流センター 8F

岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号

TEL 019(606)1717

第1会場：会議室803

第2会場：会議室804A

第3会場：会議室804B

第4会場：研修室812

会長 富田 泰史

事務局：弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座
弘前市在府町5

TEL 0172 (39) 5057 FAX 0172 (35) 9190

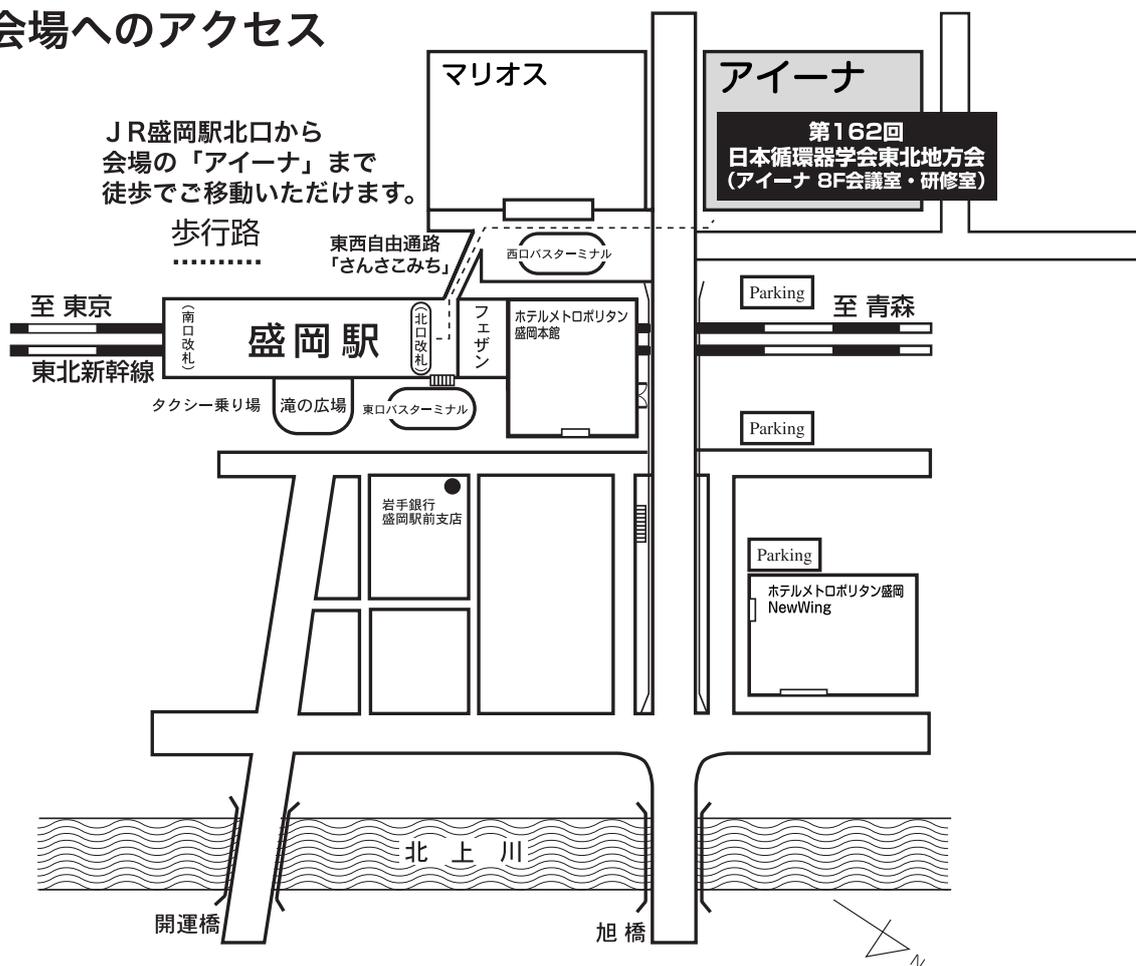
- 当日受付にて参加費のお支払いをお願いいたします。
(医師/その他 3,000円、コメディカル 1,000円、学生・初期研修医 無料)
 - 一般演題：発表時間は5分(予鈴4分)、追加討論2分、YIAの発表時間は7分(予鈴6分)、追加討論3分とします。時間厳守をお願いします。
 - コンピュータープレゼンテーションによる発表のみとします。
 - Windows版PowerPoint2007、2010、2013で作成して下さい。
 - 動画は使用できません。
 - Macintosh及び持込PCでの発表はできません。
 - 発表30分前まで**に、作成したデータをUSBメモリに入れてPC受付にお持ち下さい。
 - データのファイル名には演題番号(半角)に続けて発表者の氏名(漢字)を必ずつけて下さい(例：20弘前太郎.ppt)。
 - 不測の事態に備えて必ずバックアップデータをお持ち下さい。
 - 本会場内に託児施設を設置いたします。ご希望の方は東北支部HPをご参照の上、5月27日(金)までにお申し込みください。
 - 学術集会(5単位)、教育セッション(3単位)とします。
 - DVDセッション「医療安全・医療倫理に関する講演会」を第4会場(研修室812)で行います。専門医認定更新に必修の2単位が取得できます。(P.22参照)
- 追記：学会案内状・プログラムは、原則として日本循環器学会会費納入者に限り発送いたします。
会場にクロークの設置はございません。

■会場のご案内

会場：いわて県民情報交流センター「アイーナ」
 8F会議室・研修室
 盛岡市盛岡駅西通1-7-1
 TEL 019-606-1717
 URL <http://www.aiina.jp>



■会場へのアクセス



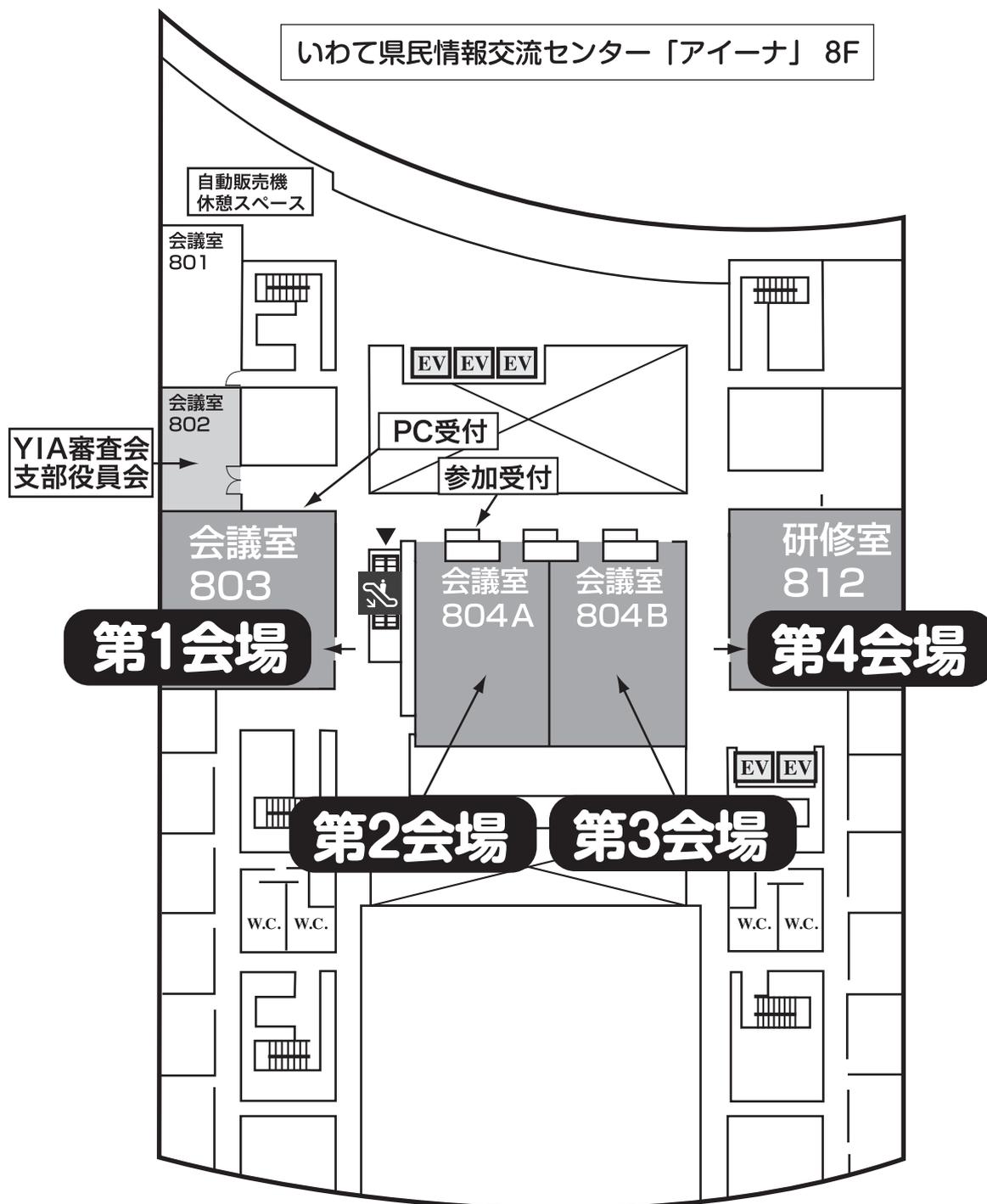
【東北新幹線】 盛岡駅北口から徒歩4分

- | | | | |
|------|-------------------|---------|---|
| ■ 青森 | ⇔ 東北新幹線「はやぶさ・はやて」 | 約50分 | ⇔ |
| ■ 秋田 | ⇔ 秋田新幹線「こまち」 | 約1時間30分 | ⇔ |
| ■ 仙台 | ⇔ 東北新幹線「はやぶさ・はやて」 | 約40分 | ⇔ |
| ■ 東京 | ⇔ 東北新幹線「はやぶさ・はやて」 | 約2時間10分 | ⇔ |

盛岡

盛岡駅北口から東西自由通路を通り、アイーナ3F入口から8Fにご移動ください。
 自家用車でお越しの方は近隣有料駐車場をご利用ください。

■会場案内図



プログラム（敬称略）

	第1会場 会議室 803	第2会場 会議室 804A	第3会場 会議室 804B	第4会場 研修室 812	会議室802
	8:30 受付開始				
9:00	8:55～9:00 開会挨拶 会長 富田 泰史 (弘前大学)				
	9:00～9:50 YIA症例発表部門 座長 富田 泰史 (弘前大学)	9:00～9:35 虚血性心疾患 1 座長 高橋 徹 (岩手県立中央病院)	9:00～9:35 不整脈 1 座長 木村 正臣 (弘前大学)	9:00～9:28 弁膜症 座長 中野 陽夫 (東北医科薬科大学)	
		9:35～10:03 虚血性心疾患 2 座長 富岡 智子 (みやぎ県南中核病院)	9:35～10:10 不整脈 2 座長 福田 浩二 (東北大学)	9:28～10:03 肺循環 座長 阿部 直樹 (つがる総合病院)	
10:00	9:50～10:40 YIA研究発表部門 座長 富田 泰史 (弘前大学)	10:03～10:38 大動脈 座長 飯野 健二 (秋田大学)	10:10～10:45 不整脈 3 座長 阿部 芳久 (秋田県立脳血管研究センター)	10:05～11:35 DVDセッション 「医療安全・医療倫理に 関する講演会」	
11:00	10:40～11:15 心筋症 1 座長 宮本 卓也 (山形大学)	10:38～11:06 末梢血管 座長 樋熊 拓未 (弘前大学)	10:45～11:20 不整脈 4 座長 武田 寛人 (太田西ノ内病院)		10:40～11:15 YIA審査会 集計(10:40～11:00) 審査会(11:00～11:15)
	11:15～11:50 心筋症 2 座長 鈴木 均 (福島県立医科大学)	11:06～11:48 心不全・血栓 座長 大和田真玄 (岩手医科大学)	11:20～11:48 心筋炎・心内膜炎 座長 皆川 正仁 (弘前大学)		11:15～11:45 支部役員会
12:00				11:45～12:00 心肺蘇生法普及委員会	
	12:00～12:40 支部社員総会 支部評議員会 YIA授賞式				
13:00		12:50～13:50 教育セッション1 ランチョンセミナー1 木村 和美 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野 座長 下川 宏明 (東北大学)	12:50～13:50 教育セッション2 ランチョンセミナー2 岡村 智教 慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学 座長 竹石 恭知 (福島県立医科大学)		
14:00	13:50～14:50 教育セッション3 特別講演 坂田 泰史 大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 座長 富田 泰史 (弘前大学)				
14:50					

*平成27年12月より、下記3つの会を開催します。

「支部役員会（毎回開催）」、「支部社員総会（28年度より毎年6月開催）」、「支部評議員会（毎回開催）」

従来通り一般会員の先生方のご参加は可能ですが、議決権は有しません。

YIA 症例発表部門 (第 1 会場) 9:00 ~ 9:50

座長 富田 泰史

01 不整脈原性右室心筋症の臨床像に酷似した心サルコイドーシスの 1 例

東北大学 循環器内科学 ○三木 景太、福田 浩二、中野 誠、近藤 正輝
瀬川 将人、平野 道基、千葉 貴彦、深澤恭之朗
諸沢 薦、下川 宏明

02 集学的治療により LVAD を離脱しえた周産期心筋症の一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学・呼吸器内科学
○加藤 宗、真壁 伸、高橋久美子、奈良 育美
関 勝仁、小山 崇、飯野 健二、渡邊 博之
伊藤 宏

03 α トロポミオシン 1 (TPM1) 遺伝子にミスセンス変異を伴った若年性肥大型心筋症の一家系

福島県立医科大学 循環器・血液内科学講座
○渡邊 俊介、義久 精臣、安齋 文弥、菅野 優紀
上岡 正志、鈴木 聡、及川 雅啓、小林 淳
国井 浩行、竹石 恭知
東京医科歯科大学 難治疾患研究所・分子病態分野
林 丈晴、木村 彰方

04 完全皮下植込み型除細動器 (S-ICD) によるセンシング特性の課題が示唆された蘇生後 Brugada 症候群の一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学
○石田 祐司、佐々木憲一、金城 貴彦、西崎 公貴
對馬 佑一、富田 泰史、奥村 謙
弘前大学大学院医学研究科 不整脈先進治療学
佐々木真吾、堀内 大輔
弘前大学大学院医学研究科 高血圧・脳卒中内科学
木村 正臣

05 心筋に広範な低エコー領域を呈し、心筋生検により確定診断に至った悪性リンパ腫心筋浸潤の一例

山形県立中央病院 循環器内科
○志鎌 拓、加藤 重彦、菊地 翼、渡部 賢
大道寺飛雄馬、高橋 克明、玉田 芳明、福井 昭男
矢作 友保、松井 幹之、後藤 敏和

06 Superoxide Dismutase-1 遺伝子多型が心血管死に与える影響

—山形県コホート研究—

山形大学医学部 第一内科 ○大瀧陽一郎、渡邊 哲、岩山 忠輝、西山 悟史
高橋 大、有本 貴範、穴戸 哲郎、山中 多聞
宮本 卓也、久保田 功

07 雪かき作業を契機に発症した急性心筋梗塞症例の臨床的特徴と予後の検討

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学

○妹尾麻衣子、横山 公章、遠藤 知秀、西崎 史恵
横田 貴志、山田 雅大、樋熊 拓未、富田 泰史
奥村 謙

08 左心由来肺高血圧の予後予測における肺動脈キャパシタンスの有用性

福島県立医科大学医学部 循環器・血液内科学講座

○神 雄一朗、杉本 浩一、中里 和彦、坂本 信雄
八巻 尚洋、国井 浩行、義久 精臣、鈴木 均
斎藤 修一、竹石 恭知

09 血漿セロトニン濃度は冠微小血管障害を反映する

東北大学 循環器内科学

○小鷹 悠二、高橋 潤、圓谷 隆治、羽尾 清貴
西宮 健介、須田 彬、小松 真恭、松本 泰治
伊藤 健太、下川 宏明

10 腎移植術による心機能改善効果

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学・呼吸器内科学

○阿部 起実、飯野 貴子、飯野 健二、渡邊 博之
伊藤 宏

心筋症 1 (第1会場) 10:40~11:15

座長 宮本 卓也

11 抗体関連型拒絶反応 (AMR) を合併した心臓移植の一例

東北大学 医学系研究科 心臓血管外科学分野

○高原 真吾、河津 聡、秋山 正年、川本 俊輔
齋木 佳克

東北大学 循環器内科学 青木 竜男、杉村宏一郎、下川 宏明

12 Hybrid手術室において集約的加療を要した「たこつぼ型心筋症」の一例

東北大学 循環器内科学

○須田 彬、西宮 健介、圓谷 隆治、羽尾 清貴
松本 泰治、高橋 潤、伊藤 健太、下川 宏明

東北大学 肝胆膵外科学

佐藤 英昭、森川 孝則、海野 倫明

13 褐色細胞腫が起因と疑われたたこつぼ様心筋障害の一例

つがる西北五広域連合 つがる総合病院 循環器・呼吸器・腎臓内科

○矢部 遥子、加藤 千里、工藤奈津美、阿部 直樹
山本 猛

14 急性心不全を呈した逆たこつぼ心筋症の一例

石巻赤十字病院 循環器内科

○土屋 隼人、小山 容、石垣 大輔、玉渕 智昭
祐川 博康

15 GLA 遺伝子変異とゼブラ小体を伴いファブリー病との鑑別を要した閉塞性肥大型心筋症の一例

福島県立医科大学医学部 循環器・血液内科学講座

○八重樫大輝、及川 雅啓、坂本 信雄、小林 淳
鈴木 聡、義久 精臣、八巻 尚洋、中里 和彦
鈴木 均、斎藤 修一、竹石 恭知

心筋症 2 (第1会場) 11:15~11:50

座長 鈴木 均

16 潜在性左室流出路狭窄を有するS字状中隔により失神を呈した一例

公立置賜総合病院 循環器内科

○竹村 昭宣、石野 光則、北原 辰郎、新関 武史
山内 聡、池野栄一郎

17 二度目の心筋生検で心臓限局性心サルコイドーシスと診断し得た1症例

岩手県立中部病院 循環器内科

○西澤 健吾、土川 幹史、井筒 大人、織笠 俊樹
盛川 宗孝、齊藤 秀典

18 繰り返す失神から診断に至ったALアミロイドーシスの一例

一般財団法人 脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院 循環器科

○志波 慶樹、川村 敬一、佐藤 雅之、永沼和香子
大杉 拓、武藤 満、小野 正博

19 右室に限局した心サルコイドーシスの1例

岩手県立中部病院 循環器内科

○盛川 宗孝、織笠 俊樹、齊藤 秀典、西澤 健吾
土川 幹史、井筒 大人

20 運動誘発性の高度房室ブロックを契機に診断された心サルコイドーシスの一例

日本海総合病院 循環器内科

○齋藤 悠司、桐林 伸幸、青野 智典、後藤 準
本田晋太郎、瀬津 俊介、菊地 彰洋、近江 晃樹
菅原 重生

虚血性心疾患 1 (第2会場) 9:00~9:35

座長 高橋 徹

21 左冠尖に形成した血栓により左主幹部の急性心筋梗塞を発症した一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学

○成田 真人 横山 公章、遠藤 知秀、西崎 史恵
横田 貴志、山田 雅大、樋熊 拓未、富田 泰史
奥村 謙

22 右冠動脈遠位部慢性完全閉塞病変に対するPCIにより、高度僧帽弁閉鎖不全症が改善し開心術を回避し得た症例

福島県立医科大学 循環器内科

○寶槻 優、国井 浩行、安藤 卓也、秋田 発
國分 知樹、上岡 正志、小林 淳、鈴木 均
斎藤 修一、竹石 恭知

23 短期間で2度発症した責任病変の異なる不安定狭心症の一例

寿泉堂総合病院 循環器内科

○谷 哲矢、水上 浩行、谷川 俊了、鈴木 智人

24 LADからRCAが分岐する単冠動脈の1例

山形市立病院済生館

○阿部 航也、佐々木真太郎、中田 茂和、宮脇 洋

25 sirolimus eluting stentに関連した遅発性イベントを繰り返した一例

福島赤十字病院 循環器内科

○佐藤 優紀 渡部 研一、根岸 紘子、阪本 貴之
大和田尊之

26 OCTにより詳細に観察できた“Artery-to-Artery”機序による急性心筋梗塞の一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学

○川村 陽介、横山 公章、遠藤 知秀、西崎 史恵
横田 貴志、山田 雅大、樋熊 拓未、富田 泰史
奥村 謙

27 心筋梗塞慢性期に発症する心不全の予測因子

仙台市医療センター仙台オープン病院 循環器内科

○浪打 成人、杉江 正、瀧井 暢、牛込 亮一
佐藤 公一、加藤 敦

28 抗癌剤の使用と関連してACSを発症した6例

国立病院機構 仙台医療センター

○人見 泰弘、篠崎 毅、石塚 豪、尾上 紀子
山口 展寛、藤田 央、高橋 佳美、山中 信介

29 心サルコイドーシスに冠攣縮性狭心症を合併した2症例

東北大学 循環器内科学

○崔 元吉、羽尾 清貴、西宮 健介、圓谷 隆治
松本 泰治、高橋 潤、伊藤 健太、下川 宏明

大動脈（第2会場） 10:03～10:38

座長 飯野 健二

30 非典型的な画像所見のため診断に苦慮した急性大動脈解離の一例

岩手県立中央病院 循環器内科

○赤沼 英、赤沼 英、遠藤 秀晃、照井 洋輔
梶谷 翔子、門間 雄斗、佐藤謙二郎、金澤 正範
野田 一樹、中嶋 壮太、高橋 徹、中村 明浩
野崎 英二

岩手県立中央病院 心臓血管外科

小田 克彦

31 Stanford B型急性大動脈解離に伴う急性呼吸不全の予測因子の検討

みやぎ県南中核病院 循環器内科

○富岡 智子、竹内 智、土屋 聡、伊藤 愛剛
塩入 裕樹、小山 二郎、井上 寛一

32 異所性右鎖骨下動脈を伴った急性A型大動脈解離に対し上行弓部置換術後緊急TEVARを施行し救命した1症例

岩手県立中央病院 心臓血管外科

○高橋 悟朗、小田 克彦、寺尾 尚哉、鷹谷 紘樹
長嶺 進

33 後腹膜腫瘍が疑われた緩徐進行性の腹部仮性大動脈瘤の一例

山形県立中央病院 循環器内科

○高橋 克明、志鎌 拓、大道寺飛雄馬、加藤 重彦
玉田 芳明、福井 昭男、松井 幹之、矢作 友保
後藤 敏和

山形県立中央病院 心臓血管外科

鈴木耕太郎、川原 優、阿部 和男

34 片側の間歇性跛行を呈したStanford分類B型急性大動脈解離の一例

仙台厚生病院 循環器内科

○富樫 大輔、堀江 和紀、西願 誠、遠田 佑介
土岐 祐介、宮坂 政紀、箆井 宣任、松本 崇
伊澤 毅、櫻井 美恵、多田 憲生、宗久 雅人
本多 卓、井上 直人、目黒泰一郎

末梢血管（第2会場） 10：38～11：06

座長 樋熊 拓末

- 35 深部静脈血栓症を発症したMay-Thurner症候群に対して腸骨静脈ステントを留置した1例

公立置賜総合病院 循環器内科

○山内 聡、北原 辰郎、新関 武史、石野 光則
竹村 昭宣、池野栄一郎

- 36 当院における浅大腿動脈TASC A/B病変における薬剤溶出性自己拡張型ステントの治療成績

山形大学医学部 第一内科

○高橋 大、大瀧陽一郎、渡邊 哲、橋本 直明
熊谷 遊、成味 太郎、和根崎真大、岩山 忠輝
西山 悟史、有本 貴範、穴戸 哲郎、宮本 卓也
山中 多聞、久保田 功

- 37 総腸骨動脈から膝窩動脈の閉塞病変に対し血管内治療とバイパス術を同時に施行した閉塞性動脈硬化症の症例

仙台厚生病院 循環器内科

○堀江 和紀、井上 直人、田中綾紀子、宗久 雅人
目黒泰一郎

仙台厚生病院 心臓血管外科

山谷 一広、畑 正樹

- 38 下肢静脈瘤に対するラジオ波による血管内治療の短期成績

岩手県立中央病院 心臓血管外科

○片平晋太郎、小田 克彦、鷹谷 紘樹、高橋 悟朗
長嶺 進

心不全・血栓（第2会場） 11:06～11:48

座長 大和田真玄

39 低アルドステロン血症により低血圧が遷延した重症肺炎・心不全の一例

岩手県立中央病院

○照井 洋輔、中嶋 壮太、門坂 崇秀、中田 貴史
渡辺 翼、佐藤謙二郎、金澤 正範、野田 一樹
近藤 正輝、遠藤 秀晃、高橋 徹、中村 明浩
野崎 英二

40 多発性心内腫瘍を認めたうっ血性心不全の一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学・呼吸器内科学

○奈良 育美、加藤 宗、高橋久美子、真壁 伸
小山 崇、飯野 健二、渡邊 博之、伊藤 宏

41 NOAC 関連脳出血症例の予後不良例の検討

(財)黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

○萩井 譲士、目時 典文、斎藤 新、白戸 弘志
佐々木都子、高橋 広希、人見 博康、鎌田 孝篤
保嶋 実

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学

富田 泰史

弘前大学医学部保健学科

長内 智宏

済生会熊本病院心臓血管センター不整脈先端治療部門

奥村 謙

42 慢性心不全患者の簡便な予後予測リスクスコアの開発

東北大学 循環器内科学

○笠原信太郎、坂田 泰彦、但木壮一郎、山内 毅
小野瀬剛生、辻 薫菜子、阿部 瑠璃、及川 卓也
高橋 潤、下川 宏明

東北大学 循環器EBM開発学 宮田 敏

43 日本の慢性心不全患者における在宅健康管理と予後に関する研究

－CHART-2 研究からの報告－

東北大学 循環器内科学

○阿部 瑠璃、坂田 泰彦、三浦 正暢、山内 毅
小野瀬剛生、辻 薫菜子、及川 卓也、笠原信太郎
後岡広太郎、高橋 潤、下川 宏明

東北大学 循環器EBM開発学 宮田 敏

44 左室駆出率が低下した心不全と左室駆出率が保たれた心不全の臨床学的特徴における差
－ CHART- 2 研究の知見－

東北大学 循環器内科学 ○辻 薫菜子、坂田 泰彦、三浦 正暢、後岡広太郎
但木壮一郎、山内 毅、小野瀬剛生、阿部 瑠璃
及川 卓也、笠原信太郎、高橋 潤、下川 宏明
東北大学 循環器EBM開発学 宮田 敏

不整脈 1 (第3会場) 9:00~9:35

座長 木村 正臣

45 減衰伝導特性を有する左側前壁の潜在性副伝導路を介した房室回帰性頻拍の一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学

○對馬 迪子、金城 貴彦、石田 祐司、富田 泰史
奥村 謙

弘前大学大学院医学研究科 高血圧・脳卒中内科学

木村 正臣

弘前大学大学院医学研究科 不整脈先進治療学

佐々木真吾、堀内 大輔

46 冠静脈洞憩室での高周波通電により副伝導路離断に成功したWPW症候群の1例

仙台厚生病院 心臓血管センター 循環器内科

○箴井 宣任、富樫 大輔、西願 誠、須知 太郎
遠田 佑介、伊藤 真輝、石井 和典、土岐 祐介
宮坂 政紀、田中綾紀子、松本 崇、堀江 和紀
伊澤 毅、櫻井 美恵、多田 憲生、宗久 佳子
宗久 雅人、本多 卓、大友 達志、井上 直人
目黒泰一郎

47 副伝導路の斜走と心房中隔の肥厚によりアブレーションに難渋した肥大型心筋症合併のWPW症候群の一例

福島県立医科大学 循環器・血液内科学講座

○野寺 稷、金城 貴士、上岡 正志、神山 美之
鈴木 均、竹石 恭知

48 冠静脈洞 - 右房接合部がリエントリー回路に含まれると考察した通常型房室結節リエントリー頻拍の1例

仙台市立病院 循環器内科

○佐藤 舞、八木 哲夫、鈴木 啓資、小松 寿里
佐藤 英二、中川 孝、佐藤 弘和、山科 順裕
三引 義明、石田 明彦

49 ファロー四徴症術後のPVCに対し、大動脈冠尖からの通電が有効であった一例

東北大学 循環器内科学

○中野 誠、福田 浩二、長谷部雄飛、木村 義隆
平野 道基、深澤恭之朗、千葉 貴彦、三木 景太
諸沢 薦、下川 宏明

不整脈 2 (第3会場) 9:35~10:10

座長 福田 浩二

50 心房細動アブレーション後、遅発性に心嚢液貯留をきたした1例

仙台市立病院 循環器内科 ○佐藤 弘和、石田 明彦、三引 義明、山科 順裕
中川 孝、佐藤 英二、小松 寿里、佐藤 舞
鈴木 啓資、八木 哲夫

51 左房内隔壁を有する症例で施行した心房細動アブレーションの1例

仙台市立病院 循環器内科 ○鈴木 啓資、佐藤 弘和、石田 明彦、三引 義明
山科 順裕、中川 孝、佐藤 英二、佐藤 英二
小松 寿里、佐藤 舞、八木 哲夫

52 脳梗塞患者の発作性心房細動検出におけるANP測定の有用性

(財)黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

○白戸 弘志、目時 典文、萩井 譲士、保嶋 実
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学
富田 泰史
済生会熊本病院心臓血管センター不整脈先端治療部門
奥村 謙

53 高カリウム血症により心室停止に至った左脚ブロックの1例

国立病院機構 仙台医療センター

○佐藤 公亮、山口 展寛、高橋 佳美、山中 信介
人見 泰弘、藤田 央、尾上 紀子、石塚 豪
篠崎 毅

54 アルコール摂取時に顕在化した房室伝導障害により失神を繰り返したMarfan症候群の1例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学

○對馬 佑一、石田 祐司、佐々木憲一、金城 貴彦
西崎 公貴、富田 泰史、奥村 謙
弘前大学大学院医学研究科 不整脈先進治療学
佐々木真吾、堀内 大輔
弘前大学大学院医学研究科 高血圧・脳卒中内科学
木村 正臣

不整脈 3 (第3会場) 10:10~10:45

座長 阿部 芳久

55 カルバマゼピン内服中に完全房室ブロックをきたした1例

国立病院機構 仙台医療センター

○川名 友美、山口 展寛、高橋 佳美、山中 信介
藤田 央、尾上 紀子、石塚 豪、篠崎 毅

56 Electrical stormを来したBrugada症候群の1例

岩手県立釜石病院内科循環器内科

○梶田 房紀、那須 崇人、佐々木加弥、坂本 翼
小松 隆、川上 幹夫

岩手医科大学 内科学講座 心血管・腎・内分泌分野

小澤 真人、中村 元行

岩手医科大学 内科学講座 循環器分野

田口 裕哉、芳沢 礼佑、森野 禎浩

57 J waveの関連が示唆される心室細動発作を起こした若年Brugada症候群の一例

東北大学 循環器内科学

○深澤恭之朗、中野 誠、近藤 正輝、瀬川 将人
千葉 貴彦、三木 景太、福田 浩二、下川 宏明

58 地域一般住民における血清エイコサペンタエン酸濃度とJ波頻度の関連： 岩木健康増進プロジェクトからの報告

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学

○木村 嘉宏、富田 泰史、山田 雅大、市川 博章
西崎 公貴、成田 育代、金城 貴彦、丹野 倫宏

弘前大学大学院医学研究科 社会医学講座

中路 重之

済生会熊本病院心臓血管センター不整脈先端治療部門

奥村 謙

59 腎梗塞を契機に発症したTorsade de Pointesの一例

太田総合病院附属太田西ノ内病院 循環器センター 循環器内科

○大原妃美佳、武田 寛人、君島 勇輔、金澤 晃子
石田 悟朗、遠藤 教子、新妻 健夫、小松 宣夫

福島県立医科大学 循環器内科講座

竹石 恭知

不整脈 4 (第3会場) 10:45~11:20

座長 武田 寛人

- 60 作動確認テストにより適正なICD設定が可能であった閉塞性肥大型心筋症の1例
東北大学 循環器内科学 ○中野 誠 福田 浩二、長谷部雄飛、木村 義隆
平野 道基、深澤恭之朗、千葉 貴彦、三木 景太
諸沢 薦、下川 宏明
- 61 マラソン中に心肺停止に至り着用型自動除細動器を装着した虚血性心筋症の一例
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学
○米倉 学、横山 公章、遠藤 知秀、西崎 史恵
横田 貴志、山田 雅大、樋熊 拓未、富田 泰史
奥村 謙
- 62 左室内血栓のためICD作動確認ができず着用型自動除細動器を使用して待機した一例
山形大学 医学部 第一内科 ○水戸 琢章、有本 貴範、大瀧陽一郎、橋本 直土
橋本 直明、熊谷 遊、和根崎真大、岩山 忠輝
西山 悟史、高橋 大、穴戸 哲郎、宮本 卓也
渡邊 哲、久保田 功
- 63 冠攣縮性狭心症による心室細動の二次予防にWCDが有用であった1例
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学
○小路 祥紘、西崎 公貴、石田 祐司、佐々木憲一
堀内 大輔、木村 正臣、佐々木真吾、富田 泰史
奥村 謙
- 64 冠攣縮性狭心症の関与が疑われる心室細動に対してS-ICD植込みを施行した1例
東北大学 循環器内科学 ○千葉 貴彦、福田 浩二、中野 誠、長谷部雄飛
平野 道基、深澤恭之朗、木村 義隆、三木 景太
諸沢 薦、下川 宏明

心筋炎・心内膜炎（第3会場） 11:20～11:48

座長 皆川 正仁

65 膠原病精査を契機に発見されたLibman-Sacks型心内膜炎の一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学・呼吸器内科学

○田村 善一、渡部久美子、加藤 宗、奈良 育美
真壁 伸、飯野 健二、渡邊 博之、伊藤 宏

66 反復する敗血症性肺塞栓で手術治療となったVSD合併感染性心内膜炎の1例

東北大学 循環器内科学

○杉澤 潤、建部 俊介、杉村宏一郎、青木 竜男
三浦 正暢、山本 沙織、矢尾板信裕、鈴木 秀明
佐藤 遥、神津 克也、佐藤 公雄、下川 宏明

67 経皮的心肺補助装置装着後に巨大左室内血栓を形成した劇症型心筋炎の一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学・呼吸器内科学

○岩川 英弘 飯野 貴子、佐藤 輝紀、飯野 健二
渡邊 博之、伊藤 宏

68 劇症型心筋炎に対する体外式補助人工心臓2例の使用経験

岩手県立中央病院 心臓血管外科

○高橋 悟朗、小田 克彦、寺尾 尚哉、鷹谷 紘樹
長嶺 進

岩手県立中央病院 循環器内科 野田 一樹、高橋 徹、中村 明浩
東北大学病院 心臓血管外科 秋山 正年、川本 俊輔、齋木 佳克
東北大学病院 臓器移植医療部 秋葉 美紀

弁膜症（第4会場） 9：00～9：28

座長 中野 陽夫

69 成人三心房心と大動脈二尖弁による大動脈弁狭窄症を合併し失神をきたした一例

山形大学 医学部 第一内科 ○橋本 直明、宮本 卓也、有本 貴範、和根崎真大
岩山 忠輝、西山 悟史、高橋 大、穴戸 哲郎
山中 多聞、渡邊 哲、久保田 功
山形大学 第二外科 浜崎 安純、貞弘 光章

70 Marfan症候群・Bentall術後遠隔期に生じた拡張型心筋症に対し右開胸による二弁置換術を施行した一例

弘前大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座
○谷 建吾、皆川 正仁、村上 健、近藤 慎浩
大徳 和之、福田 幾夫

71 シベンゾリン投与とバルーン大動脈弁形成術が有効であった左室流出路狭窄を伴う重症大動脈弁狭窄症の一例

山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院
○後藤 準、近江 晃樹、青野 智典、齋藤 悠司
禰津 俊介、本田晋太郎、菊地 彰洋、桐林 伸幸
菅原 重生

72 大動脈弁弁口面積評価のpitfall

国立病院機構 仙台医療センター
○高橋 佳美、山中 信介、人見 泰弘、藤田 央
山口 展寛、尾上 紀子、石塚 豪、篠崎 毅

肺循環（第4会場） 9：28～10：03

座長 阿部 直樹

73 全身性エリテマトーデスを合併し出産後に発症した肺高血圧の一例

福島県立医科大学 循環器内科

○横川沙代子、鈴木 聡、菅野 優紀、益田 淳朗
中里 和彦、鈴木 均、斎藤 修一、竹石 恭知

寿泉堂綜合病院 循環器内科 水上 浩行

74 BMPR2遺伝子変異が診断されたASD合併肺動脈性高血圧症の1例

東北大学 循環器内科学

○建部 俊介、杉村宏一郎、青木 竜男、三浦 正暢
山本 沙織、矢尾板信裕、鈴木 秀明、佐藤 遥
神津 克也、佐藤 公雄、下川 宏明

岩手医科大学 循環器小児科 小山耕太郎

国立循環器病研究センター 肺循環科

中西 宣文

国立循環器病研究センター研究所 分子生物学部

森崎 裕子

東北大学加齢医学研究所 呼吸器外科学

岡田 克展

東北大学 心臓血管外科学 安達 理、齋木 佳克

75 12誘導心電図の経時的観察が病勢把握に有用であった肺塞栓症の1例

青森県立中央病院 循環器センター 循環器科

○四ツ谷千尋、對馬 迪子、鈴木 晃子、舘山 俊太
櫛引 基、今田 篤、藤野 安弘

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

大和田真玄

76 急速に進行した強皮症に伴う肺高血圧症の1例

東北大学 循環器内科学

○矢尾板信裕、杉村宏一郎、建部 俊介、青木 竜男
三浦 正暢、山本 沙織、鈴木 秀明、佐藤 公雄
下川 宏明

77 慢性血栓塞栓性肺高血圧症と統合失調症についての検討

東北大学 循環器内科学

○青木 竜男、杉村宏一郎、鈴木 秀明、三浦 正暢
建部 俊介、山本 沙織、矢尾板信裕、佐藤 遥
神津 克也、佐藤 公雄、下川 宏明

YIA 審査会	10:40～11:15 (会議室802)
DVDセッション	10:05～11:35 (第4会場 研修室812)
心肺蘇生法普及委員会	11:45～12:00 (第4会場 研修室812)
支部社員総会 支部評議員会 YIA 授賞式	12:00～12:40 (第1会場 会議室803)

教育セッション 1

ランチョンセミナー 1 12:50～13:50 (第2会場 会議室804A)

座長 東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学 教授 下川 宏明 先生

『脳梗塞治療のパラダイムシフト：NOACから血管内治療まで』

日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野 教授 木村 和美 先生

共催：第162回日本循環器学会東北地方会
第一三共株式会社

教育セッション 2

ランチョンセミナー 2 12:50～13:50 (第3会場 会議室804B)

座長 福島県立医科大学 循環器・血液内科学講座 教授 竹石 恭知 先生

『プライマリケアにおける循環器疾患の発症予測：

フラミンガムスコアから吹田スコアまで』

慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学 教授 岡村 智教 先生

共催：第162回日本循環器学会東北地方会
日本ライフライン株式会社

教育セッション 3

特別講演 13:50～14:50 (第1会場 会議室803)

座長 弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座 准教授 富田 泰史 先生

『心不全治療の新しい展開』

大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 教授 坂田 泰史 先生

共催：第162回日本循環器学会東北地方会
日本メドトロニック株式会社

DVDセッション

「医療安全・医療倫理に関する講演会」

専門医の認定更新に必修の「医療安全・医療倫理に関する研修」に関する2単位を取得できるDVDセッションを開催致します。

3月の日本循環器学会学術総会もしくはインターネットでも視聴できます。詳細は以下をご覧ください。

<必修研修と単位数>

2009年3月20日の評議員会の審議を経て循環器専門医認定更新の際に所定の研修が必修となりました。

専門医認定更新には下記の必修研修単位を含む合計50単位が必要となります。

(1) **最新医療の知識習得に関する研修……30単位以上**

日本循環器学会主催の学術集会・地方会（いずれも教育セッションを含む）への参加にて単位を取得してください。

該当の研修単位数……本会年次学術集会10単位、（学術集会時の）教育セッション5単位、各地方会5単位、（地方会時の）教育セッション3単位

(2) **医療安全・医療倫理に関する研修……2単位以上**

本会学術集会または本会地方会で開催の「医療安全・医療倫理に関する講演会」への参加。あるいはインターネットでの視聴研修プログラムによる研修で単位を取得してください。

単位数……（上記どの方法で取得されても）2単位

※ 同じ研修内容を視聴された場合には重複して単位は加算されませんのでご注意ください。

お問い合わせ先：（一社）日本循環器学会 専門医制度委員会
TEL：03-5501-0863 E-mail: senmoni@j-circ.or.jp

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総 則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会 員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。
2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社 員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。
2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。
2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。
2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会

本部に報告する。

4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第11条 各地方会に会長1名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第12条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年1回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認（JCS-ITC報告など）
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第13条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年1回以上開催し、主に以下の事項を扱う。

- 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項（JCS-ITC 報告など）
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
 4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
 5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

（支部評議員会）

第14条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年1回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項（JCS-ITC 報告など）
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

（支部事務局業務）

第15条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要（事後確認可）とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

（地方会）

第16条 各支部は地方会を年1回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後2ヵ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第17条 各支部はJCS-ITC講習会をJCS-ITC担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目 的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定 義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。
 - 1) 規程について正しい知識がなかったこと
 - 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
 - 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部運営内規

(総 則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を東北支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東北大学大学院医学系研究科循環器内科学内に設置する。

(支部長)

第3条 2年毎に行われる理事選出選挙の後、第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は4月1日からとする。

2. 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部役員)

第4条 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部長推薦枠として本支部においては、会員である東北地区6大学の循環器を担当する内科の教授が就任することとする。その他にも支部役員として必要な人物がいる場合は、支部長が推薦する。

2. 任期中において各大学教授の交代があった場合は役員も変更となるが、就任期間は前任者を引継ぐこととする。
3. 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第5条 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。

2. 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、本支部においては、支部運営から独立性をもった者を、支部長が候補者を会員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。
3. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第6条 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC担当幹事1名、その他幹事を若干名とし、支部役員、支部評議員との兼務も可能とする。

2. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3. 支部事務局担当幹事ならびにJCS-ITC担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収

支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。

4. JCS-ITC業務担当幹事は、会員かつファカルティーの中から選出することとする。ファカルティーがいない場合は会員かつコースディレクターの中から選出する。
5. 支部幹事は、それぞれの業務において投資が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

(支部評議員)

第7条 支部規程第10条に定める支部評議員は、支部役員1名の推薦により選出し、支部役員会及び支部社員総会において承認する。

2. 候補者は、支部役員会予定日より15日以前に所定の用紙を用いた履歴書、業績書及び支部役員1名が署名・捺印した推薦書を支部長へ提出する。
3. 支部評議委員会に正当な理由なく3回連続して欠席した者、退会した者、東北地区から移動した者は、支部評議員の資格を喪失する。
4. 支部評議員の任期は4年とし再任は妨げない。
5. 支部評議員の辞職は支部役員会及び支部社員総会において承認する。
6. 支部評議員の期中での辞職については、速やかに補充を行うこととし、支部役員会にて承認した上で、後日支部社員総会において追認する。なお任期は前任者を引継ぐこととする。

(地方会会長)

第8条 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」に定められた内容を遵守しなければならない。

2. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
3. 地方会会長は、地方会開催日程の決定を行う。
4. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
5. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
6. 地方会運営にあたる企画会社の選定は、会長一任とするが、企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
7. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設しなければならない。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のものが利用出来ない体制を構築しなければならない。
8. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部名誉会員)

第9条 支部規程第4条2項に定める支部名誉会員は、東北地区単独の支部社員総会において選任する。

2. 支部名誉会員の被推薦資格は、支部社員総会開催日において年齢65歳以上（当日に65歳を迎える者を含む）の東北支部所属の会員であり、支部評議員を3期以上務めたものとする。

3. 支部名誉会員は、支部評議員会に出席することができる。また、支部社員総会にも出席することができるが議決権は有しない。
4. 支部名誉会員は、支部役員、支部幹事の兼務を不可とする。
5. 支部名誉会員は、永年資格とする。
6. 支部名誉会員の内、東北地方会で会長を務めた者、支部長を務めた者は、支部特別名誉会員と呼ぶ。処遇は支部名誉会員に準用する。

(支部社員総会、支部評議員会)

第10条 支部規程第13条に定める支部社員総会、支部規程第14条の支部評議員会は、同時開催することとする。

(支部事務局業務)

第11条 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

(地方会)

第12条 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は原則として毎年2回地方会を開催する。

2. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会東北地方会とする。
地方会運営に関するその他の事項は地方会運営要領に定めることとする。

(JCS-ITC 講習会)

第13条 支部規程第17条1項に定めるJCS-ITC講習会について、本支部はJCS-ITC業務担当幹事との協議により支部事務局において事務業務（受講者への連絡、受講料受付・謝金や立替金の精算等）を行う。なお、これらの事務業務について、円滑に業務を遂行することを目的として、支部役員会の承認のもと、外部業者へ業務委託を行っても構わない。委託範囲・経済条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

2. JCS-ITC講習会の事務業務についてはJCS-ITC講習会事務要領に定めることとする。

附 則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 地方会運営要領

この地方会運営要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部（以下「本支部」という）において地方会を円滑に運営するために必要な事項を規定する。

（広 報）

1. 地方会会長は、地方会開催日程、会場、地方会会長事務局の担当者が決まり次第、本支部へ報告する。本支部は「地方会開催連絡票」を本会へ提出するとともに、本支部ホームページに情報を掲載することとする。
2. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。

（会 計）

3. 地方会会長、または、支部事務局担当幹事は、開催前年度の支部役員会・支部社員総会に出席して、本部へ提出予定の地方会予算及び事業計画について事前に承認を得る。また、支部評議員会にて報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる
4. 地方会参加費は、正会員3,000円、コメディカル1,000円、初期研修医無料、学部学生無料とする。参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
5. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。なお寄付金受入先について、本会が禁煙宣言を行っている学会であることを鑑み、本会学術集会同様、日本たばこ産業・鳥居薬品からの寄付受入は禁ずる。
6. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部よりその経費を補助する。ただし、上限を100万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
7. 地方会において男女共同参画セミナーを実施する場合は、本支部より講師招請経費を補助する。ただし上限を20万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
8. 地方会開催にあたり開設する金融機関の口座名義は、「一般社団法人日本循環器学会 第〇〇回 東北地方会 会長 〇〇〇〇」とする。
9. 地方会当日の現金（参加費）の取扱いについて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
10. 地方会当日に徴収した参加費について、当日中に口座入金するか金庫に保管することとする。地方会終了後、翌営業日には口座入金することとする。
11. 教育講演の招請者への待遇について、謝金上限は演者100,000円（源泉税抜）、座長50,000円（源泉税抜）、交通費は実費支給とし、地方会当日、直接本人へ現金もしくは振込対応する。これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
12. 地方会で支払われた講演謝金及び会長校スタッフ臨時雇用費の源泉所得税は、地方会会長事務局において納付対応する。なお東北支部事務局から参加したスタッフ臨時雇用費は、東北支部事務局において納付対応する。
13. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
14. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会繰越金専用口座に振り込む

こととし、地方会開催に関係無い備品等の購入に充ててはならない。その後、口座は解約する。

15. 地方会の経費精算は、原則地方会終了後2か月以内に完了させ、入出金に係るすべての証憑を本支部に提出しなければならない。外部の団体から助成金・補助金を受けた場合は、交付決定通知書の控えも提出すること。
16. 地方会会長は、開催次年度の支部役員会・支部社員総会、支部評議員会に出席して、地方会決算及び事業内容の報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる。

(会 議)

17. 支部役員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部事務局が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
18. 支部社員総会、支部評議員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
19. 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。

(演題募集)

20. 地方会会長は、演題募集スケジュールを決定し、「地方会演題募集ホームページ利用申請書」を本会及び本支部へ提出する。演題募集の開始日・締切日は前後に祝日のない火曜日から木曜日で設定すること。申請書の提出期限はオンライン演題募集システム利用開始の2カ月前とする。
21. 本支部は、オンライン演題募集システムの管理者用ID及びパスワードを地方会会長事務局へ通知する。なお、パスワードについては、本支部が毎年度更新することとし、変更後のパスワードを本会に通知する。
22. 募集締切日延長等の連絡は、混乱を避けるために必ず本会経由で行うこととする。

(専門医単位登録)

23. 地方会会長は、詳細が決まり次第「教育セッション開催届」ならびに「DVDセッション開催届」(DVDセッションを開催する場合に限る)を本会及び本支部へ提出しなければならない。
24. 地方会会長事務局は、地方会時に専門医単位登録(地方会参加5単位、教育セッション参加3単位、DVDセッション参加2単位)を行うこととするが、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
25. 教育セッション及びDVDセッションの専門医単位登録は、不正やミスを防止するため、時間を限定して行わなければならない。(例:セッション開始1時間(又は30分)前から終了30分前)
26. DVDセッションについて、同じ内容の講演会を学術集会及びインターネットで聴講したことがある会員は、単位加算ができない。地方会会長は事前にプログラム等での旨を告知し、当日も会場に掲示すること。

(プログラム・抄録)

27. プログラムは、本会会告（偶数月25日発行）への抱き合わせで本支部会員へ発送することができる。希望する場合は、「地方会プログラム冊子抱合発送申請書」を本会及び本支部へ提出すること。プログラム以外の発送物（チラシ等）があれば、その内容を申請書に明記すること。申請書の提出期限は、会告発行1か月前とする。
28. 抄録については、冊子発行を行わず本会ホームページに掲載する。本会ホームページへの掲載にあたり、抄録著者による校正は行わない。訂正等がある場合には、地方会終了後速やかに本会へ連絡することとする。なお、地方会会長事務局は、その旨をプログラムに記載し会員に告知すること。
29. プログラム完成後、本支部へ2部、本会へ5部を送付すること。
30. 地方会会長は、抄録データを本会に提出しなければならない。当日発表されなかった演題は抄録データとして扱わない。

(演題発表)

31. 地方会演者は、発表前のスライドにおいて定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
32. 日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Awardについて
 - 1) 当支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」（東北地方会 YIA 「症例発表部門」「研究発表部門」）を設ける。
 - 2) 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法、演題応募要領は以下に記載する。ただし、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。

①応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満35歳以下の方。

東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

②対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に1施設2題（ただし1科1演題）までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

③選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞1名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門5題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

④会長奨励賞

YIA 希望演題の内、一般病院の演題から1題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題が YIA 最優秀賞または優秀賞に選出された場合は YIA を優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。

⑤応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIAに応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

⑥賞

部門毎に最優秀賞1名(賞金10万円)および優秀賞若干名(賞金5万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。会長奨励賞は1名(賞金5万円と表彰状)。

⑦締切り

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

- 3) YIA選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授6名と大会長が選出する6名の選考委員の計12名で構成される。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の6名の選考委員については大会長が再度選出する。

(その他)

33. 会員への印刷物送付等の必要が生じた場合、本会へ「会員名簿・あて名作成依頼書」を提出して会員名簿及び宛名ラベルを請求することができる。会員情報のデータでの受け取りは原則不可とするが、例外的に申請する場合は、誓約書に会長の署名及び捺印が必要となる。
34. 地方会開催校については、公平を期すため各県で順番に開催する。なお、その順番等の変更については、支部役員会にて決定する。

附 則

- 1) この要領は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
この要領改正は、支部長の判断に基づき、支部事務局にて変更して良い。なお、変更時は、支部役員会での追認が必要となる。

東北支部事務局

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 JCS-ITC 講習会事務要領

この事務要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部事務局において JCS-ITC 事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算等）を行うために必要な事項を規定する。

日本循環器学会はAHA（アメリカ心臓協会）と契約し、心肺蘇生法の教育を行う JCS-ITC（国際トレーニングセンター）を開設している。循環器専門医は心停止や心停止前後での蘇生や心拍再開後の集中治療を必要としていることから、AHA ACLS（二次救命救急措置）の資格取得を受験の条件としている。

また、医療従事者や一般市民向けのコースも開催しており、地域の救命率向上を目指していることから支部にてコース運営を行っており、それに付随する事務業務も支部事務局にて行っている。

※支部運営内規 第6条3にて定められる JCS-ITC 業務担当幹事はファカルティから選出される。ファカルティは各コースの運営統括責任者であり、新たなインストラクターを教育する立場である。

1. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
2. コース開催日程は、支部ホームページに掲載することとする。
3. コース募集期間中、コースディレクター（以下、CDと略す）と連携を取り、受講者からの問い合わせ対応を行うこと。
4. 下記内容についての受講者への連絡を行うこと。
採択通知、追受講者の代理登録（CDより指示があった場合）、会場変更、コース中止
5. 講習会管理システムから受講者を確認し、受講者からの受講料入金確認を行うこと。
規定日までに入金を確認できない場合には、入金の督促を行うこと。
6. 受講者より受講料領収書の発行依頼があった場合の発行手続きを行うこと。
7. 支部担当者が交代する場合には業務内容を明確の上、後任者へ引継ぎを行い、業務に支障が生じないようにすること。また支部担当者が急病等で業務を行えない場合は、事務局担当幹事より JCS-ITC 業務幹事に速やかに連絡をし、JCS-ITC 業務幹事と支部長において今後の対応を検討すること。
8. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。
9. 専用口座は、通帳管理者・印鑑管理者・キャッシュカード使用者（作成している場合のみ）を明確にし、一覧にして支部長へ提出しなければならない。（一覧に変更が生じた場合は随時、見直しを行い更新の上、提出する。）
10. 専用口座の通帳、印鑑は、使用者が施錠出来る場所に必ず保管しなければならない。また、キャッシュカード、パスワードについては使用者が変更となる度に変更しなければならない。
11. コース開催時にコースディレクター等が昼食代等の立替精算をした場合、必ず領収書（レシート可）を入手し、何を購入し、何に利用したのか、誰が立替えしたのか、分かるように領収書に記載（メモ書き可）の上、支部事務局へ提出すること。なおコース運営が参加者の受講料から成り立っていることを鑑み、不必要な経費支出は行ってはならない。

12. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクと各自立替えしたコース開催地までの交通費について、支部事務局へ報告しなければならない。支部事務局はコースディレクターからの報告に基づき、インストラクター・タスク一覧を作成する。
13. 各コースディレクターがコースに必要な資金を前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC業務担当幹事のメール承認を要する。なお、JCS-ITC業務担当幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
14. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛ての領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
15. 支部事務局は、インストラクター・タスク一覧、提出された旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金金額については本会、救急医療委員会において定められたとおりとする。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）
16. 支部事務局は、収入・経費を取纏め（漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認）の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。
17. JCS-ITC講習会運営専用口座で余剰金が1000万円を超えた場合、支部のJCS-ITC講習会専用口座に資金を移行する。

附 則

- この要領は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- この要領改正は、支部役員会での決定を必要とする。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 会則

1. 日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA) を設ける。
2. 本会則は平成21年2月14日に開催される第147回東北地方会から有効とし、本会則の変更は総会で審議・決定される。
3. 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法は演題応募要領に記載するが、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。
4. YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授6名と大会長が選出する6名の選考委員の計12名で構成される。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の6名の選考委員については大会長が再度選出する。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award (東北地方会 YIA)

演題応募要領

趣 旨

日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA) を設け、毎回の東北地方会において、優秀演題の表彰を行う。

応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満35歳以下の方。
東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に1施設2題(ただし1科1演題)までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞1名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門5題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

会長奨励賞

YIA 希望演題の内、一般病院の演題から1題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題が YIA 最優秀賞または優秀賞に選出された場合は YIA を優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。

応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

賞

部門毎に最優秀賞1名(賞金10万円)および優秀賞若干名(賞金5万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。
会長奨励賞は1名(賞金5万円と表彰状)。

締 切

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

第162回日本循環器学会東北地方会 YIA 審査委員

(敬称略)

青 森

弘前大学 循環器腎臓内科学
青森県立中央病院

准教授 富田 泰史
院 長 藤野 安弘

岩 手

岩手医科大学 循環器内科分野
盛岡赤十字病院

教 授 森野 禎浩
副院長 市川 隆

秋 田

秋田大学 循環器内科学・呼吸器内科学
市立秋田総合病院

准教授 渡邊 博之
副院長 中川 正康

山 形

山形大学 内科学第一講座
山形県立中央病院 循環器内科

教 授 久保田 功
部 長 福井 昭男

宮 城

東北大学 循環器内科学
国立病院機構仙台医療センター 循環器内科

教 授 下川 宏明
部 長 篠崎 毅

福 島

福島県立医科大学 循環器・血液内科学講座
大原総合病院

教 授 竹石 恭知
副院長 石橋 敏幸

日本循環器学会東北支部役員（平成28年4月1日現在）

支 部 長	下川 宏明			
理 事	下川 宏明	伊藤 宏	横山 斉 (外科分野/東日本地区)	
支 部 役 員	下川 宏明 (東北大学/支部長・理事)	伊藤 宏 (秋田大学/理事)		
	横山 斉 (福島県立医科大学/理事/外科分野)			
	中村 元行 (岩手医科大学)	久保田 功 (山形大学)		
	竹石 恭和 (福島県立医科大学)	森野 禎浩 (岩手医科大学)		
	伊藤 貞嘉 (東北大学)	齋木 佳克 (東北大学/外科分野)		
	富岡 智子 (みやぎ県南中核病院/女性分野)			
名誉特別会員	白土 邦男	平 則夫	丸山 幸夫	三浦 博
名誉支部員	青木 孝直	芦川 紘一	池田 精宏	石出 信正
	伊藤 明一	猪岡 英二	今井 潤	大和田憲司
	小野 幸彦	小岩 喜郎	門脇 謙	金澤 正晴
	金塚 完	木島 幹博	齋藤 公男	佐々木 弥
	佐藤 昇一	高橋 恒男	高松 滋	立木 楷
	田中 元直	田巻 健治	布川 徹	星野 俊一
	前原 和平	三浦 幸雄	三国谷 淳	室井 秀一
	元村 成	盛 英機	保嶋 実	柳澤 輝行
	山本 文雄	渡辺 毅		

支 部 評 議 員	各県ごと五十音順、○印は社員 (旧：全国評議員)			
青 森	佐々木真吾	富田 泰史	長内 智宏	花田 裕之
	平賀 仁	福田 幾夫	藤野 安弘	森 康宏
岩 手	伊藤 智範	岡林 均	小松 隆	佐藤 衛
	瀬川 郁夫	田代 敦	中村 元行	野崎 英二
	蒔田 真司	○森野 禎浩		
秋 田	阿部 芳久	飯野 健二	○伊藤 宏	小林 政雄
	斎藤 崇	佐藤 匡也	鈴木 泰	田村 芳一
	中川 正康	長谷川仁志	○渡邊 博之	
山 形	池田乙すえ	池野栄一郎	石井 邦明	小熊 正樹
	金谷 透	○久保田 功	後藤 敏和	貞弘 光章
	菅原 重生	廣野 撰	福井 昭男	松井 幹之
	宮脇 洋	○渡邊 哲		
宮 城	○伊藤 健太	○伊藤 貞嘉	井上 直人	加賀谷 豊
	上月 正博	小丸 達也	○齋木 佳克 ¹	西條 芳文
	坂田 泰彦	○下川 宏明	○富岡 智子 ²	○堀内 久徳 ³
	山家 智之			
福 島	石川 和信	石橋 敏幸	○齋藤 修一	斎藤 富喜
	杉 正文	○竹石 恭知	武田 寛人	○横山 斉 ¹

1. 外科分野 2. 女性分野 3. その他の分野

会 計 監 事 石出 信正 猪岡 英二

幹 事 支部事務局担当幹事：伊藤 健太 (東北大学)
 JCS-ITC 講習会担当幹事：花田 裕之 (青森県立中央病院)
 幹事：坂田 泰彦 (東北大学)
 幹事：福田 浩二 (東北大学)